

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 あーね		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 23日		R8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R8年 1月 22日		R8年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個室が多い。 活動スペースが広い。	子ども一人一人の発達段階や特性に応じて集団活動と個別活動の場を柔軟に使い分け、落ち着いて取り組める環境を整えている。	個室や広い活動スペースの活用方法について職員間で共有・検討を行い、児童一人一人の特性やその日の状態により適した環境設定ができるよう支援の質を高めていく。
2	多機能型の事業所のため切れ目のない支援ができる。	慣れ親しんだ職員との関わりを継続することで新たな環境への移行時も見通しを持って参加でき、不安の軽減につながるよう配慮している。	日々の活動の中で取り組んできたことが成功体験として積み上げられるよう様々な活動を実施していく。また、環境の変化があっても安心して活動できるよう、視覚的な提示やルーティーン化を取り入れる。
3	保護者参加型の茶話会を開催している。	保護者同士の情報交換の場として、また、事業所での支援内容や利用時のお子さまの様子や取り組みをご覧いただける機会となるよう工夫している。主役となる利用児だけでなく、きょうだい一人一人にも目を向け、家庭全体を支える視点を大切にしたい交流の場としている。	茶話会の回数頻度が限られていることから、今後は季節ごとの行事にも保護者の方に参加していただけるよう検討し、交流の機会の充実を図っていく。テーマ設定や進行方法を工夫し、より充実した取り組みを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足している。	安全面や支援体制への配慮から、地域との交流を広げる機会づくりが十分に行えていないことが課題となっている。	地域行事への参加や小規模な交流活動から段階的に取り入れ、安全面に配慮しながら地域とのつながりを広げていく。
2			
3			